

振興戦略 3つの柱

農業で「稼ぐ」

農業を「経営」として成り立たせます。

田園を「守る」

農村を「維持」していきます。

安曇野で「生きる」

農業が息づく安曇野で「暮らし」しましょう。

課題解決に向けた5つの仕組みづくり

1 ブランド農産物の地位を守り、育てる

市民が自慢でき、市外からも認められる農産物のブランド地位を維持し、全国に向けて安曇野ブランドを発信し続けます。

2 安曇野ブランドを海外に広めていく

安曇野から海外へ。“良いものは世界の人にも知ってもらいたい、食べてもらいたい”安曇野の農家と市民の皆さんが共に“安曇野”を海外へ発信します。

3 忙しい農作業を助けあっていく

農繁期に、農家と農家以外の方が手を携えられるような、安曇野らしい“手助け”が形になるよう、取り組みます。

4 家庭菜園の悩みにお答えできる

家庭菜園などで農業が楽しく身近に感じられるような、気軽に相談できる窓口などを設置し市民の皆さんの“農”をお手伝いします。

5 市民と“共に”行動していく

市民の皆さんが“安曇野産”を食べることからはじめて、市民と農家が共に、職業としての“農業”や資源としての“農業”について一緒に考え行動します。

具体的な戦略

市や農家、JA、事業所、市民などが連携して「安曇野からのメッセージ」として施策に取り組み、世界に誇れる「田園産業都市・安曇野」の実現を目指します。



援農の仕組みづくり

農繁期に必要な労働力を調べ、農家と非農家をつなぐ仕組みづくりに取り組みます。特に若者や学生が農業に携わる仕組みや人財確保の方法を検討・実施します。



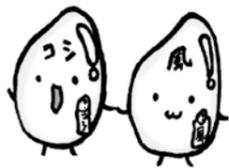
新規就農者受け入れ

安曇野への移住・定住・1ターン希望者等呼び込み、新規就農者を迎えます。



海外輸出特産りんごや本わさびを世界へ

直接海外で安曇野を売り込みます！訪日外国人には自国で宣伝してもらえらる方法を研究します。



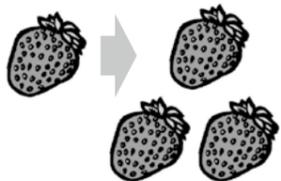
安曇野の米を推す

JAと連携して、ブランド米の強化を図ります。また、「コシヒカリ」、「風さやか」の栽培と消費を進めます。



安曇野ワサビを守る

ワサビ田や地下水の保全、ワサビの生産振興などに取り組みます。



夏秋いちご

出荷額を3倍に  
販売拡大、特に地元向け販売のために、契約栽培等を目指した調査・研究をします。

●策定委員会で出された意見

第2次計画の策定にあたり、市内の農業関係者、商工会、消費者団体などからなる市農業農村振興計画策定委員会で検討しました。委員会で出された主な意見は次の通りです。

- ・長野県が開発したオリジナル米「風さやか」の生産・販売に力を入れていくべきである
- ・農作業を手伝ってもらう仕組みが必要である。
- ・幅広い年齢層を対象に担い手を確保・育成する必要がある。
- ・地産地消・家庭菜園の普及等について、計画的に進めるべきである。

「安曇野で「暮らしたい」「暮らしよかかった」と思えるような農業のある暮らし」の実現を市民の皆さんと取り組んでいきます。  
計画の全編および概要版は、ホームページまたは、農政課（2階17番窓口）で入手できます。  
問 農政課 農業政策係  
TEL 71・2427 FAX 71・2507

この計画は、第1次市総合計画で定めた分野別基本方針「豊かな産業のあるまちの形成」の実現に向けた農業・農村の振興に関する実行計画です。計画期間は、平成29年度から平成33年度までの5年間で、第2次計画では、第1次計画での取り組みを検証し、課題解決に向けた仕組みづくりに取り組みます。

農ある暮らしや地産地消 私たちのできることから始めましょう

私たちが、地域資源に気づき、活用することが大切です。例えば、地元で採れる農産物を積極的に食卓に取り入れるなど、地産地消の推進は、地域の産業を守ることにつながります。  
安曇野で「暮らしたい」「暮らしよかかった」と思えるような農業のある暮らしの実現を市民の皆さんと取り組んでいきます。